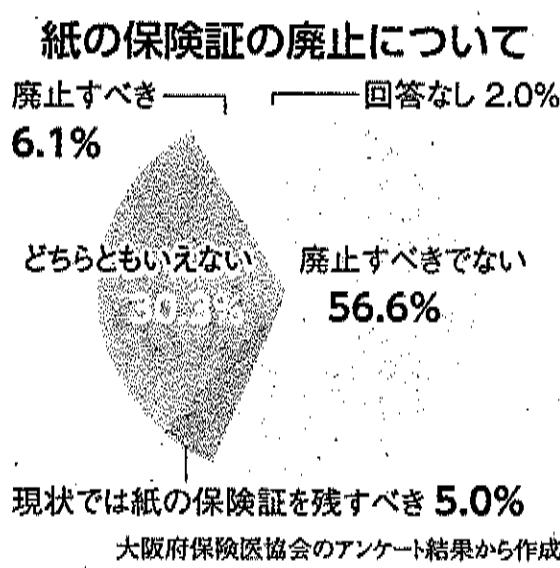


紙の保険証「存続を」6割



医療現場でのマイナ・協会が実施したアンケート調査結果（21日）によると、保険証に関するトラブルの発生率は、約4割（44%）と高い。一方で、現行の紙の保険証を「廃止すべきではない」と答えた人は約7割（69%）と多く、多くの医療機関が電子化への対応に迷っている。また、オンライン資格確認システムの問題点を挙げた人は約6割（59%）と多かった。

アンケートは2月29日、府内50の病院にファクス送信。99病院(19・6%)から回答が寄せられた。

「廃止すべきでない理由」、「マイナカードを端末で読み取る作業に時間を要するため、非効率」「高齢者や認知症など自身で申請や管理が困難な場合の対策が十分でない」といった意見がありました。

意見があつたことから、97年度のうち87・8%が、稼働状況について「全く使われていない」と回答。オンライン資格確認の対応による受け受け体制の時間短縮や合理化になつていたとの質問では、「なぜ」「なぜ」など回数が60・6%を上回りました。

一方で、調査結果をもとに現場の実態を政 府・国議員に訴へ、「廃止」「両方使 紙の保険証の「廃止」がもたらす問題点を明 らかにし「存続」を求めるべきた」などの意見がありました。